

6 その他全般的事項

<教養学部 教養学科>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当無し	該当無し

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

自己点検評価委員会において、授業評価等教員の資質の維持向上について審議している。

b 委員会の開催状況

平成22年度は2回開催した。

c 委員会の審議事項等

- ・ 自己点検・評価の基本方針に関すること
- ・ 自己点検・評価の実施計画に関すること
- ・ 自己点検・評価項目に関すること
- ・ 自己点検・評価結果の活用等に関する事項
- ・ その他自己点検・評価に関する事項
- ・ 上記に掲げる事項のうち、管理運営、施設設備及び放送・制作等に関するものについては、必要に応じ、当該事項に関連する委員会等と連携を図りつつ審議を進めることとしている。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学生による授業評価
2009年度第2学期新規科目学部4科目、2010年度新規科目学部47科目、大学院16科目
全てに対して実施
- ・ 学習センター所長及び客員教員による授業評価
学生による授業評価と同じく、2009年度第2学期新規科目及び2010年度新規科目全てに
対して実施
- ・ 専任教員に対する授業評価
2009年度第2学期新規科目及び2010年度新規科目に対し、学生による授業評価の対象科目
から各領域より選出して実施
- ・ FDに関するセミナー
効果的な教材作成支援のためFDセミナーを実施

- ・ 新たに開設する科目の主任講師に「教材作成マニュアル」の他FD的要素を含めた「放送教材ハンドブック」を配布することにより、教員への周知を図った。

b 実施方法

- ・ 学生による授業評価は、2009年度第2学期新規科目及び2010年度新規科目履修者より無作為抽出を行い、学部学生10,250名、大学院学生3,200名、計13,450名に調査票を配布し、実施した。
- ・ 学習センター所長及び客員教員による授業評価は、対象科目67科目を各学習センター長に対象科目の放送教材、印刷教材、通信指導問題、単位認定試験問題、評価レポートを配布し、実施した。
- ・ 専任教員による授業評価は、対象科目26科目を対象の領域代表者に資料、データを配布し、実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ FDセミナー（7回開催123名参加）
- ・ スタジオ体験研修会（主任講師会議と併せて2回開催計61名参加）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価の評価結果は、対象科目の主任講師、専任教員、学習センター所長、放送部、制作部等の科目制作関係者及びその他必要と思われる者に対して、全科目対象科目の評価結果及び概要を提供し、対象科目の改善、次期改訂科目を制作する場合の活用、開設科目の検討に際し活用した。
- ・ 2011年度の学習センター所長及び客員教員による授業評価について、2012年度新規科目の印刷教材の評価を製本前に実施する。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、家庭、地域、企業、政府さらには国際社会で活動するすべての人々に対して開かれた生涯学習のための大学であり、学問の知識と学習者の経験を融合させる「知識循環のプラットフォーム（共通基盤）」としての教養教育を中核に据えた高等教育研究機関を目指すとともに、放送と通信を利用する遠隔授業や双方向的な面接授業などの多様な教育手段を用いて、他大学などの教育機関や公共・民間機関との連携を促進して、世界的な水準の生涯学習システムを構築し、質の高い生涯学習社会の実現に貢献することを基本理念としている。

これらの理念を踏まえるとき、教育研究体系の要件としては、学習者の多様かつ今日的なニーズの多様度に対応するに十分な多様性を備えること、かつそれらが決してバラバラに用意されているのではなく、互いに融合した学際的なものとして位置づけられていることが求められる。個人の価値観の多様化、経済構造の複雑な変化、グローバル化の一層の進展等により、社会秩序に変化が生じ、社会共通の目的や目標が失われてきている現代あつては、問題や課題は多様かつ複合的な背景・要因により発生し、したがってその解決にはやはり多様かつ複合的な取り組みが不可欠となるからである。

そこで、本学では従来提供してきた教育内容や構造を見直し、従来の3コース6専攻を廃止して平成21年度より新たに「教養学科」を設置したところである。この改組により次のような知識循環システムの提供が可能となった。

① 「学生と大学」の間の知識循環

年齢・性別・職業・地域を問わない、さらに「開かれた生涯学習」を供給することが可能となった。例えば、「エキスパート」（科目群履修認証制度）などを通じて、学生の視点を積極的に取り入れ、それを学問体系として洗練させ、学生へ還元していくこととしている。

② 「学問領域」の知識循環

科学技術の進展や情報社会の進展にしたがって、学問領域が専門化される傾向がより強まっているが、このような状況に対して、本学では新たな科目群として従来の「一般科目」及び「専門科目」に加えて「基礎科目」及び「総合科目」を設定した。これにより、学問専門領域間の活性化を図り、学の総合化を目指しつつ学際的な学習を提供する体制が整えられた。

③ 「国内外機関との間」の知識循環

本学は、国内外の教育研究機関、行政機関、NPO、地域社会、企業などとの間において、研究・教育による連携・交流・社会的貢献を行うことを目指している。例えば、新学科設置に先立ち平成20年度より海外の3大学と国際交流協定を締結し、共同研究や人的交流を実施することとしている。

以上が教養学科設置による概況である。また、これに加え、平成21年度には本学の5年程度先を視野に入れた将来ビジョンである「アクション・プラン2010」を策定した。そこでは第1に学生の満足度を高めるため、学習センターと協同して学生との密接な意思疎通を図り、学生と大学との間に「円滑なインターフェイス」を構築すること、第2に国際的に視野を広げ、その中で進捗している遠隔教育の流れにおいて、世界に通用する生涯学習機関として確立することを重点として掲げ、教育の質の向上、教養教育の広がりや資格取得教育の充実等10の具体策を定め、「知識循環のプラットフォーム」としての教養教育を中核に据えた高等教育機関を目指していくこととしている。今後とも、掲げた目標を達成し、理念を実現すべく教職員が一丸となって取り組んでまいりたいと考えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成22年7月 公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開
- ・自己点検・評価報告書を刊行し、全国50ヶ所の学習センターに送付するとともに、単位互換締結校等関係機関に送付

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成22年度に評価機関（独立行政法人大学評価・学位授与機構）の評価を受験した。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 無)
- b 公表予定時期 (2011 年 5 月 31 日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.ouj.ac.jp/hp/osirase/setti/index.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AO報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。